

全国中高教育模擬国連研究会  
代 表 米 山 宏

先生方、相変わらず大変ご無沙汰しています。年が明けまして、第 2 回全国高校教育模擬の年になりました。先日ようやく第 1 回が終了したと思ったら、早くも第 2 回の準備を始める時期になりました。

さて、今号の全模研ニュースでは昨年末に行われた全模研の年次総会と同時に開催された勉強会である教員模擬国連について他+αを報告します。

## 全模研 2017 年度 年次総会

期日：2017 年 12 月 10 日（日）

場所：玉川学園高等部

出席者：教員MUN参加者のうち 14 名の全模研会員

会議の成立：上記 14 名の参加に加えて、全会員に開催のメールを送り、欠席する場合は議決権を役員に委任する旨の可否を連絡したところ、委任を拒否する者はいなかったため、欠席者全員分の委任を代表が取り付けたものとして会議は成立した。

議題及び議事内容：

1. 第 1 回全国高校教育模擬国連大会についての報告（報告事項：代表より）  
8 月に開催された大会について概略及び結果の報告
2. 全模研会則についての確認（報告事項：代表より）  
2017 年 2 月にメール上で承認された会則の再確認
3. 事務連絡（報告事項：代表より）  
既に始まっている第 2 回大会の実行委員の募集について他

\*議題は全て議決を必要としない報告事項だったため、問題なく終了しました。

## 勉強会～第 2 回教員模擬国連

2016 年夏の第 1 回教員MUNに続いて、会場である玉川学園の後藤先生のご尽力で第 2 回が開かれ、盛況のうちに幕を閉じました。後藤先生にはこの場を借りて御礼を申し上げます。今回は会の模様について後藤先生と議長を務めた渋谷教育学園渋谷の菅家先生にレポートをお願いしましたので、お届けします。とくに菅家先生の総括は生徒がおこなう模擬国連のあり方についてのヒントになる部分も多々ありますので、普段より実践されている先生方もぜひご一読ください！

なお、全模研会員の出席者は後藤先生、菅家先生に加え下記の通りです。（順不同 敬称略）

池田 亜佑美（金光大阪中高） 三浦 佳奈（富士見中高） 小出 一也（長野県立飯山高）

塚田 章裕（金沢大学附属高） 林 陽樹（大谷高） 柿岡 俊一（浦和西高）

大西 麗（大妻中野中高） 藤原 敏晃（昭和女子大学附属中高） 前田 健志（金沢大学附属高）

木村 明子（昭和女子大学附属中高） 濱野 あづさ（玉川学園高） 米山 宏（公文国際学園中高）

## 後藤先生より

期末の多忙な時期にもかかわらず、全国（大阪・京都・岐阜・石川・長野・埼玉等）から 22 名の先生方が集まり、2 回目の教員対象模擬国連会議が開催できました。今回は、米山先生のご配慮で、全模研主催として 12 月

定例会の後に設定してくださいました。

ご存知のように、模擬国連会議に大使として参加するという事は、多大な時間と労力を使いリサーチすることが伴います。多忙な先生方に模擬国連会議に参加していただくには、この点をクリアしなければいけません。この点、会議の議題、論点の設定、議題解説書の執筆にとどまらず、22 개국すべてのポジションペーパーを用意して下さった慶應義塾大学日吉研究会 OB の中川慶さんのご尽力には本当に頭が下がります。会議中にも、随時適切な説明を挟んでくださり、参加した先生方の理解に大いに貢献したと思います。

また、今回は渋谷教育学園渋谷中高等学校の菅家先生が、議長役を買って出てくださいました。会議前からどんな議事進行をされるか楽しみでしたが、期待にたがわぬ堂々としたスムーズなリードぶりでした。その理由は、菅家先生のレポートを読んでくださるとよくわかると思います。

短い会議でしたが、そのあとの懇親会も多くの先生方が参加されて、お互いの悩みを相談しつつも楽しい時間を過ごすことができました。

他の教育活動と違って、模擬国連は指導者側の経験や知識や指導上のノウハウの蓄積があまりありません。教科書や指導書もありません。これほど魅力的な教育活動なのに、普及においてこの指導者側の問題は看過できません。今回のこの会議が、この問題の解決への一助となることを願っています。

玉川学園高等部国語科 後藤芳文

## 菅家先生より

### 総括

今回初めて教員模擬国連に参加させていただきましたが、非常に興味深く、実り多き会議だったと感じています。会議前の自己紹介では「何も準備してきていなくて…」と恐縮されていた方が多かったのですが、さすが先生方、しっかりとポジションペーパーや BG を読み込んでいらっしゃる、活発な議論が繰り広げられました。特に印象的だったのは、モデレート・コーカスによる進行が会議の大半であったこと。生徒が大使役を務める会議では、最初にスタンスを確認するために短めのモデレート・コーカスを行ったあと、ほとんどがアンモデレート・コーカスを使って会議が進みますが、今回はモーションを募集するたびに、議題の異なるモデレート・コーカスが提案され、大使全員が DR の形成に参加できるスタイルで会議がおこなわれたことがとても印象的でした。また、ポイント・オブ・インフォメーションが多く行使され、それぞれの大使のフォーマル・ディベート（スピーチ）に対する質疑応答が、非常に活発に行われていたのも印象的でした。高校生の会議では、ポイント・オブ・インフォメーションとポイント・オブ・インクワイアリーは同義（議場の進行に対する質問）と定義されていますが、今回の会議は大学模擬国連のルールを使用したため、ポイント・オブ・インフォメーションは大使のフォーマル・ディベートに対する質問、ポイント・オブ・インクワイアリーは議長に対する議事進行上の質問と定義されていました。そのため、大使のフォーマル・ディベートが終わったあと、その内容に対して活発な質疑応答がなされ、それが次のモデレート・コーカスに繋がっていくなど、会議の活動一つ一つが有機的に結びついていました。生徒が行う会議では、スピーチは時に時間稼ぎや英語の練習のために使用されているという印象があります。もちろん、英語でスピーチを行う以上、理解度に差が出るのは仕方がないですし、現状のルールでは、公式の場で各大使に対して質疑応答ができるわけではないのですが、今回の会議を見ていると、もっとフォーマル・ディベートが会議の進行に貢献するような仕組みづくりをしてもいいのではないかと思います。

また、今回の会議では、事前に DR を用意することがなかったため、本当に話し合うべきことを大使全員がゼロから議論して、その結果が非常にシンプルな DR として完成しました。多くの場合、生徒の会議では、それぞれが DR を準備した状態で会議が始まり、それらを結合して DR が作られるため、条文が多くなり、「何が本当に大切なのか」を選別することは省略されてしまうのですが、今回はフォーマル・ディベート後の質疑応答、議題のはっきりしたモデレート・コーカスを繰り返したことにより、「人命救助を国連の最重要課題として進めるべきである」という結論に全会一致でたどり着くことができました。このように、大きなグループを形成するこ

とや、DRの提出国になることに気を使うことなく、「今、ここで、一番重要なことはなんなのか」をしっかりと議論することができたのも、教員模擬国連の面白さだったのではないかと思います。

以上のように、今回の教員模擬国連会議は、多くの意味で生徒の行う会議とは異なった展開が見られ、模擬国連の違った魅力に気づく会議となりました。また先生方も、煩雑な会議のルールを実際に体験することによって、より理解を深めていただけたのではないかと思います。その意味でとても実りのある会議だったと、議長として感じています。

今後こうした機会を作っていきたいと思ひますし、生徒の会議の裏側で、生徒と同じポジションペーパーやBGを利用して、短縮版教員模擬国連ができないかとも考え中です。模擬国連の魅力はやはり実際に体験することにあります。ぜひ、多くの先生方に模擬国連の面白さを味わっていただきたいと思ひております。末筆となりますが、期末試験等の多忙期にも関わらず、参加して下さった教員の皆さま、会議のコーディネートをしてくださった玉川学園の後藤先生と、講師の中川様に心から感謝申し上げます。

渋谷教育学園渋谷高校 菅家万里江

## 第2回全国高校教育模擬国連大会の役員決定

昨年より募集しておりました第2回大会の役員教員ですが、以下の先生方からの立候補を受け付けました。既に2回ほど役員会を開催していますが、昨年より多い総勢12名にACCUからの2名を加えて計14名で大会役員として準備にあたりたいと考えています。役員の先生方、ぜひよろしくお願ひ致します！

敬称略

池田 亜佑美（金光大阪中高） 柿岡 俊一（埼玉県立浦和西高） 後藤 芳文（玉川学園）  
斎藤 智晃（渋谷教育学園幕張） 関 孝平（かえつ有明） 竹林 和彦（早稲田実業）  
野村 佳史（ぐんま国際アカデミー） 福代 菊弥（藤嶺学園藤沢） 三浦 佳奈（富士見中高）  
宮坂 武志（浅野高） 室崎 撰（渋谷教育学園渋谷） 米山 宏（公文国際学園）

## 第2回全国高校教育模擬国連大会の生徒実行委員決定

12月の1次募集では9名のみの応募でしたが、1月まで延長した形の2次募集で多くの生徒の募集がありました。最終的には40名の応募で、昨年の38名とほぼ変わらない人数となり、開催には十分なパワーだと感じています。委員全員の個人名は公式HP等での発表に譲り、ここではリーダーの生徒のみを紹介します。

実行委員長 尾先 由崇（札幌日本大学高等学校2年）総務広報のリーダーを兼ねる

実行副委員長 長倉あんみ（宮崎学園高等学校2年）

実行副委員長 高田 陽一郎（浅野高等学校1年）

フロントセクションリーダー 茂木 柚伽（ぐんま国際アカデミー高等学校2年）

運営受付セクションリーダー 湯浅 空（市川高等学校1年）

## 編集後記

毎度毎度発行が遅れまして申し訳ありません。特に定期刊行物ではないので、発行が遅れてというのは正確な表現ではないですね。でも、自分自身の中では発行すべきタイミングで発行できていないので、「また遅れてしまった（泣）」という感覚です。

今号は全模研ニュース史上初めて他の先生に一部原稿を書いていただきました。とくに菅家先生の豊富な指導経験に基づく教員MUNの総括は私では決して書くことができない代物です。私1人が執筆していても画一的になるばかりなので、今後は多くの先生方に経験談など、他の先生に役立つ情報を提供していただきたいと考えています。自薦他薦問いません。こんな活動をしてるよ、みたいなレポートがありましたらぜひお伝え下さい。この全模研ニュースに掲載して全国の先生方に発信致します！（米山）